

## ◆ ユニークな街づくりを進めるオレゴン州ポートランド市を訪問

2014 年 2 月末、2 日間の日程で、アメリカの公園運営について調査を行う千葉県訪問団と一緒にポートランド市を訪問しました。当事務所がポートランド市 2 日間の調査のアポイントメントの取得及びサンフランシスコ市役所公園管理局とのアポイントメントの取得支援を行ったものです。以下に詳細を報告します。

### 1 ポートランド市概要

ポートランド市はオレゴン州最大の都市で、ノースウェストと呼ばれる太平洋岸北西部ではワシントン州シアトル市、カナダブリティッシュコロンビア州バンクーバーに次いで 3 番目に人口の多い町です。環境に優しい都市として全米 1 位に選ばれた都市でもあります。

### 2 充実した視察受入プログラム

今回の視察については、ポートランドの有料プログラムサービスである「First Stop Portland」を利用しました。このプログラムは、1 日 1 人 120 ドルと、有料のプログラムにはなりますが、テーマ、質問を十分理解した上で、その内容を理解するのに最適な訪問先を市でアレンジしてくれるプログラムとなっています。事務局は、Portland State University（ポートランド州立大学）内にあり、担当のプログラムディレクターは、ポートランド市長夫人でした。ポートランドは環境先進都市であるため、世界各国からの視察希望が多く、ハイレベルな行政視察の要望に的確に応えるためのプログラムを有しています。視察には基本的にプログラムディレクターが同行してくれるほか、訪問先の視察ポイント、前後の訪問先と比べての特徴などをプログラム全体を把握する立場から説明してくれることで利用者にとってわかりやすいプログラムとなっているのが特徴です。

### 3 ポートランドの公園政策

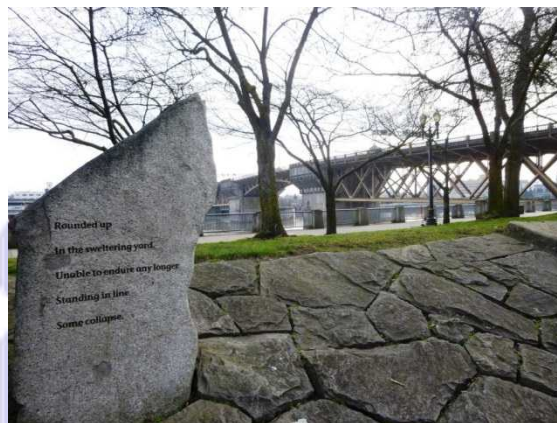
ポートランドの公園政策については、「Parks 2020 Vision」で基本方針を、戦略プランである「Strategic Plan」で 3 年毎の具体的な計画を作成しています。多くの市民の声を反映させた基本方針を基に、具体的方針を立てて公園整備を進めています。大方針としては、どこに住んでいても、公共スペース（公園）まで 1/2 マイル以内にアクセスできることを最終目標にしていますが、現状では、まだ 20%の市民がこれを達成できていないギャップエリアに住んでいるとのことでした。

また、ボランティアの活動も活発です。ポートランド市では、公園管理に要する作業時間の 20%がボランティア活動によりまかなわれており、管理費用に換算すると、全体の約 10%の価値となります。ボランティアの活動状況は、全米でもトップ 10 に入ると推計されています。

課題としては、公園のメンテナンスに必要な費用が、年間の市の公園予算の4倍となると見込まれていることです。古くなり始めた公園設備の更新、芝の張替え等、老朽化対策が必要となるため、寄付の機運をさらに高めなければならないとのことでした。ポートランドに100以上ある公園の友の会は、それぞれに、ファンレイジングに取り組んでおり、小さなコミュニティの公園でも2億円もの資金を集めることに成功した団体もあります。しかし、依然としてファンレイジングは多くの団体にとっての課題で、これを助けるために、NPO 団体である、「Parks Foundation」が尽力しているとのことでした。



芝生の多いトムマッコール公園  
(ウォーターフロントパーク)



同公園にある日系アメリカ人メモリアル

#### 4 環境先進都市と呼ばれる理由

ニューヨーク市のセントラルパークが面積ではアメリカ最大の公園ですが、ポートランド市のワシントンパークは、人口当たりの面積が全米一大きな公園になっています。また、設計者が、フレデリック・ロー・オルムステッドで、セントラルパークと同じであること、ハーフマイル歩くのに約10分程度かかることから、「誰もが歩いて10分以内に公園にアクセスできる政策」を実現しようとしているニューヨーク市と目指すゴールはほぼ同じになっており、興味深いところです。

ポートランドは、区画整理が整っており、1ブロック当たりの距離も短い歩きやすい街になっています。街の中心部では、ライトレール(北米の輸送力が軽量級な都市旅客鉄道。ライトレールトランジット「LRT」とも呼ばれる。)、ストリートカー(路面電車)が無料であるほか、バスも縦横無尽に走っており、歩行者に優しい街でした。また、自転車政策も有名で、バスの前方外側に自転車を3台まで設置できる装備があるなど、道路政策の他にも自転車利用を促進する交通政策が取られています。また、地産地消にこだわり、ノースウェスト料理と呼ばれる、オーガニック野菜をふんだんに使った料理を出す有名レストランが競い合っているため、料理のクオリティの高さも評判で、全米でも質の高さはピカイチです。また、全米で最もビールの醸造所が多い市で、醸造所の数は28箇所と、ビール好きにはたまらない土地となっています。大きなビルが少ないため、昔から「切り株タウン」と揶揄されるなど、決して都会ではなく、特段の観光資源にも恵まれていませんが、魅力的な公園や豊

かな食文化を創造することでその弱点を上手にカバーしています。公園では、有名なローズガーデンがあるため、バラの街と呼ばれているほか、日本以外にある日本庭園の中で1番のクオリティを誇る「Japanese Garden」は、全米に約 300 ある日本庭園のモデルとなっており、年間 28 万人の入場者があります。少し郊外に車を走らせるだけで、オレゴン州の大自然が堪能できるなど、住みやすい街として人口も着実に増加しています。民間と協働した都市開発の分野でも視察が多い街で、アメリカの行政政策を学ぶ上で注目に値するユニークな都市の 1 つであると言えるでしょう。



日本庭園にある枝垂れ桜は、全米一写真を取られている木との異名があります。



(鷲岡元所長補佐 和歌山県派遣)

